

市景

瓦版
～第24号～



【解説】中国の文学者・歴史学者・政治家である故郭沫若氏の旧宅を移築・復元し、整備したもの。園内に咲く春の芝桜は必見。

まち探検に出かけよう！二中ブロックコミュニティクラブ

いつも見慣れた通学路に、実はたくさんの「宝物」が隠れていました。

去る2月28日（土）、二中ブロックコミュニティクラブ（二中BCC）との協働により、第二中学校学区の小学生と保護者の皆さまを対象とした「まち歩き探検」を開催。テーマは『身近なまちなみ景観と文化・歴史』です。当日は抜けるような青空の下、5人の子どもたちと5人の保護者の皆さまが集合。地図を片手に、いよいよ探検のスタートです！



ナビゲーターとして、東京都市大学の後藤先生と建築士会の山田さんが同行してくださいました。



「ただ歩くだけじゃ、もったいない！」ということで、先生方からは建物や景観について、二中BCCの桑原さんからは歴史や文化にまつわる解説をしていただきました。

ブロックコミュニティクラブ（BCC）とは？

中学校学区を基に市内16ブロックにわけ、各ブロック内の学校などで地域の特性やボランティアの方々の専門性を生かした活動を行っています。



4面に続く



＼あの頃の風景が卓上に！？／ わくドキまちづくり～模型で再発見！行徳ってこんな街～

旧行徳街道沿いの過去のまち並みを思い出しながら、卓上で再現するワークショップを開催！

3月8日（日）、本行徳公民館にて、地域を知る皆さまと共に、ユニークなワークショップを開催しました（主催：行徳まちづくり協議会・市川市）。1/100スケールの地図と紙模型を使って、今と昔のまち並みを見比べながら過去と未来の行徳について考えた1日をレポートします。

今の街、昔の街を再現

会場には「旧江戸川沿い」と「権現道（ごんげんみち）沿い」の2つの大きなテーブルが用意され、現在のまち並みが模型で再現されています。来場された皆さまは、その精巧なミニチュアの世界に驚きつつも、興味深く見入っていました。協議会による趣旨説明の後、いよいよワークショップがスタート。今のまち並みをベースに、昭和30～40年代の思い出を語り合いながら、当時の景色を一つひとつ再現していききました。

▼今と昔の行徳の違いから景観のことを考えてみましょう



▲昭和30～40年代のまち並みの再現を目指してスタート！



景観のことと考えると難しそうだけど、模型を見ながらなら具体的にイメージできるね！

行徳の昔の話を聞いてみよう！



駄菓子屋や紙芝居、米屋、下駄屋、桶屋もあったね。

行徳は昔、茅葺屋根が多くて畑ばかりだったんだよ！

畑に至る所にあり、荒地地も混じっていたな。



川沿いの土手に建物があつたよ

過去にタイムスリップしながら、昭和30年代のまち並みを再現していくと、思い出話に花が咲きます。それと同時に見えてくるのは・・・？

ごんげんみち 権現道沿いグループ



昔は町全体が茶色で統一感があったね。

バスは大混雑でインドみたいだった。

かつては商店街があり、ネオンもあったよ。

▲今と昔の違いをあげながら、手を動かしてみると…？



▲マンションや3階建ての住宅がある今の様子

- ・川沿いは自家用の畑と荒地が多かった。
- ・意外と建物は少なく、土手から川がよく見えた。
- ・渡し船が江戸川区と行徳の区間を行きかかっていて、通勤や買い物で利用されていた。
- ・ほとんど平屋で木造家屋が多く、茅葺屋根も多かった。

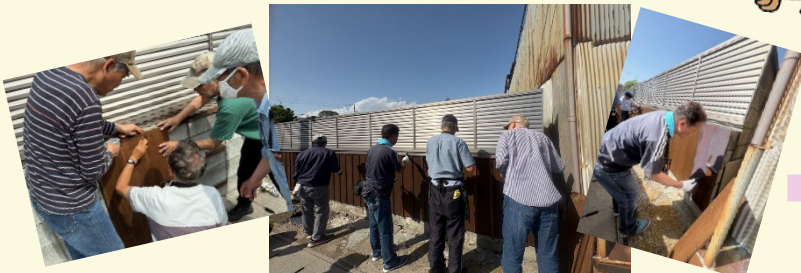
川と街道周辺グループ



今回のワークショップでは、昭和30～40年代の行徳街道周辺のまちを再現してみました。皆さんの記憶の中にある「わが家」や「通学路」、「ご近所さん」は、どのような景色でしたか？
お散歩に出かけて、ちょっと昔を振り返ってみませんか。

圓頓寺の板塀が完成！

景観の向上を目指して、行徳まちづくり協議会の「板塀プロジェクト」。2024年の検討開始から2年、ついに圓頓寺の景色が新たに生まれ変わりました。（板塀プロジェクトについては第23号で詳しく紹介しています。）



▲2025年6月の作業スタート時には、地域のみなさまのご協力をいただきました。その後、同協議会の景観部会メンバーがコツコツと作業をすすめ、去る2026年4月11日、残りの1/5を貼り終えて、板塀が完成しました。



▲完成した板塀の前で景観部会メンバーで記念撮影。約50mに及ぶブロック塀が板塀になり、お寺の景色が大きく変わりました。

「行徳まちづくり協議会」では、行徳の景観まちづくりについて様々なイベントを企画しています。詳しくは右の二次元コードからウェブサイトをご覧ください。





体験レポート～見慣れた道で宝物を見つけた日～
1面の地図の番号を見ながらチェックしてね！

1 手児奈霊神堂



「手児奈の伝説、知ってるかな？」という桑原さんの問いかけに、元気よく手が上がりました。後藤先生が用意した手児奈霊神堂の絵画と、今の景色を見比べっこ。数百年経っても変わらない「面影」をみんなで見つけました。



2 弘法寺

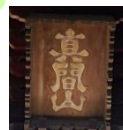


仁王門へと続く階段の途中で、不思議な「涙石」のお話を聞きました。登りきって振り返ると、かつては海だったという真間のまちが一望できます。

3 木内ギャラリー

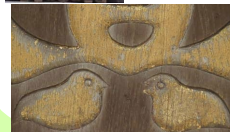


山田さんから建築の豆知識。「3階建てに見えるけれど、実は2階建てなんだよ」。屋上の「塔屋（とうや）」の大きさには、法律上の決まりがあることに驚き！



クイズ1

仁王門の看板（扁額）の「真」という文字の中に、ある「鳥」が隠れています。さて、何の鳥でしょう？



6 じゅんさい池緑地

クイズ3

水面に浮かぶ葉っぱたち。さて、「じゅん菜」はどっちかな？

A



B



5 里見公園



江戸時代には美しい景勝地として、大正時代には「里見八景園」という遊園地としにぎわった場所。昔はここに動物園やプール、大きな滑り台もあったなんて、今の公園からは想像もつかない発見でした。

クイズ2

里見公園に桜は何本ある？
A.約200本、B.約2,000本、C.約20,000本

7 ミライネス市川

(中国分4丁目景観協定)



「この地域の住宅はいくつか共通した特徴があるのだけど何かわかるかな」の問いに、子供たちが周囲を見回しながら「建物の色」「屋根の形が同じ」「電柱の色が茶色い」など気が付いた点を挙げてくれました。

後藤先生の話：ここは景観協定区域といって、屋根や壁の色や塀の配置などについてのルールが決まっているところなんだよ。このように住宅に共通の特徴を持たせると、まち並みが整って気持ちよい地域になるよね。

GOAL!

10 須和田公園

後藤先生の話：「景観」は「空間」とそこに存在する「人」という要素で成り立っているんだよ。同じ風景の中でも人がいるのと、いないのとでは全然違ってくる。今日歩いた真間、国分地域は歴史ある場所や新しい住宅地などバラエティに富んでいて、そこかしこに「人びとの暮らし」が感じられる場所だったよね。ぜひおうちや学校の近くのステキな場所、楽しい場所をたくさん探してみてね。

参加者の感想

- ・市の景観に対する思いが知ることができた
- ・一緒に歩いて新しいお友達ができた
- ・大人の遠足ができた
- ・解説のおかげで、新たな発見があった